

2010 年度秋学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	基礎演習 I		

<秋学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

チューターとしての立場というのが難しいと思った。特に小クラスにおいて、先生側の目線にいるべきなのか、1回生側の目線にいるべきなのかという感じだった。自分自身としては、1回生側としての立ち位置だったと思う。何かを教えるというよりも、1回生と同じように学ばせてもらおうといった感じだった。その中で気付いたことがあれば発言するし、先生の簡単な手伝いをするといったような感じだったと思う。

秋学期の小クラスでは、グループを分けてのディベートをおこなった。私は1つのグループに入り、実際にディベートに参加するといった形になった。ディベートでは回が進むにつれて各グループのレベルもあがってきて、密度の濃いディベートになっていったと思う。

個人的にうれしかったのは、適当にグループに振り分けられ、最初はぎこちなかったそれぞれのグループが準備やディベートをしていくことによって仲が良くなっていったことである。客観的に見ても、秋学期の始まった時と終わった時では全く違い、小クラスの雰囲気もメンバーのお互いの特徴が分かっていくことで良くなっていったのでうれしかった。

4回生による発表では、卒論作成に関することと、大学生活を振り返ってということで、1回生に向けて発表をした。私は卒論作成に関することは、1回生にとって実感がなさすぎて、興味がないかなと思ったので、大学生活について話した。自分自身の失敗談を中心に1回生の時にこうしておけばよかったことを話した。やはり大勢の前で話すのは緊張するし、難しいと改めて思った。

こういったようにチューターをすることでいろいろなことに気づくことができたと思う。そして、全体クラスでも小クラスでも、学ぶ側の立場のほうが大きく、様々なことを学ばせてもらったと思う。チューター業務はやる前は不安もあったけど、1年間やってみて、やって良かったと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

全体クラスの時はずっとチューターとして何をすべきか難しかったです。やることはあるのですが、チューターの人数の割にやることが少なかったと思うので、楽ではあるのですが、これだけでいいのかなあと感じていました。